

1/3 月曜

新型コロナ感染で入院した子どもの分析結果

入院者数	()内は入院者数に対する比率	
	中等症～重症	治療不要
第1～5波 13人	1人 (7.7%)	8人 (61.5%)
第6～7波 63人	23人 (36.5%)	8人 (12.7%)

※自治医大チームによる

新型コロナ

重症化子ども増加

自治医大まとめ

新型コロナウイルスのオミクロン株が主流となつた第六波以降にコロナで入院

した子どもは、以前に比べてけいれんなど中等症以上の重い症状が増えたとの調査結果を自治医大(栃木県)

のチームが一日、まとめた。第五日に福岡市で開かれる日本小児感染症学会で発表する。第五波以前はほぼなく、オミクロン株で重症化率が

上がった可能性もあるとい

う。同大の田村大輔准教授は第六波以降は感染者が急増し重い例が集中したことも考へ得るとした上で「以前より重症化しやすい傾向がみられる」とは確かだ。健

康な子どもも症状が重くなる恐れもある」と指摘。ワクチン接種の検討を訴えた。チームは二〇二〇年四月から二二年九月までに、白

治医大病院に入院した小児

一方、入院したが治療の

科の患者七十六人を分析した。

第六～七波で入院した六十三人のうち、36・5%に当たる二十三人は酸素投与

が必要になつたり、急性脳症を引き起こしたりして中等症から重症と判定された。昨夏、第五波までの入

院患者十三人では、同様の症状は一人で、割合は7・7%だった。

けいれんの発生率も第六

～七波の方が高かつたほか、死亡や重い後遺症が出た二人も第六波以降だつた。基礎疾患の有無と症状

の重さに関連性はなかつた。他の地域でも同様の傾向となつてている可能性があ

るという。

必要がない人もいた。第五

波までは入院者数の61・5%を占めたのに対し、第六

～七波では12・7%だっ